令和８年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立田無第四中学校

全国学力学習状況調査（中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	53.1	平均正答率は全国平均を9.1%上回った。定期的な漢字テスト等の実施により基本的な知識の定着が図れていると考えられる。また、自由進度学習の中で、自身の課題に対して学習を進める力を育むとともに、身に付けた知識を活用し、文章の内容や表現について考えを深める力の向上が見られていると考えられる。	文章の表現の効果を考えたり、友達との交流を通して自分の文章のよさや改善点を整理したりすることに課題が見られた。今後、文章中の具体的な表現等や効果を根拠をもとに説明する活動や互いの文章を読み合い、助言を基に推敲する活動を充実させることで、自分の考えを深め、適切に表現する力を育てていく。
	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる	52.6		
	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	54.6		
数学	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	49.2	平均正答率は全国平均を9.0%上回り、左に示した問題も含め、すべて全国平均を上回った。単元ごとの自由進度学習に取り組み、協働的な学習を行うことで、生徒同士で説明し合う時間を多く設定できていることで、知識の定着や思考力の向上が見られると考える。	グラフや式、表を使うという方針は理解していても、実際にそれをどのように計算に使うのか、具体化できないことに課題が見られた。今後、領域別の定着のばらつきの改善と具体的な問題における抽象的な証明・記述ができるよう指導を徹底していく。
	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる	46.7		
	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	41.6		
英語	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	47.0	平均正答率は全国平均を3.4%上回った。英文や音声から必要な情報を探す活動や、パフォーマンス課題の設定や自由進度学習を取り入れることで、基礎的な語彙や表現の定着を図りながら、学んだ内容を実際にコミュニケーションで用いたり、発表したりすることで上記の力が身についてきたと考えられる。	自分の考えやその理由を整理して話したり、身近な事柄について英文を書いたりすることに課題が見られた。今後は伝えたい内容を整理し、理由や具体例を加えて表現する活動の充実を図り、学んだ語彙や表現を繰り返し活用し、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を育てていく。
	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる	38.5		
	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる	36.8		